

転倒滑落停止研究会がスタートしました 委員を募集中です

委員長 中川和道 20230719

雪山の下りで、前方にこけそうになったら、リーダーの声がとぶだろう、「ピッケルを刺せ！」と。では、夏山の下りで前方にこけそうになったら・・・？実は、夏山の滑落停止技術がない。登山技術体系の盲点だ。もう少し詳しくみてみよう。表の各欄を説明する。

	事故疑似体験	事故防止技術 その時対策	事前の備え	事後の備え
雪山	あり ¹⁾	あり ²⁾	トレーニング 登山体操	搬出講習会
山スキー	あり ³⁾	あり ⁴⁾		
岩登り	あり ⁵⁾	あり ⁶⁾		
山歩き	なし ⁷⁾	なし ⁸⁾		

雪山では、1)滑落疑似体験:くぼ地の底地形などを用いて実際に滑ってもらう、2)滑落停止技術:ピッケルを打込む 軟雪を抱きかかえる、これらを習得してから雪山に向かうのが常識である。

山スキーでは、3)暴走体験:同様にくぼ地地形で行う 4)停止技術 横後方に上手に倒れる。

岩登りでは、5)墜落体験はトップロープやスポッティングで安全を期したうえで行う。6)墜落停止技術・衝突防止技術は確保者が行う。ボルダリング:マットの上うまく着地 足をひねらないなどを覚える。

ところが山歩きでは、7,8)転倒:転倒疑似体験も、転倒停止技術も、ない。7,8)滑落:滑落疑似体験も、滑落停止技術も、ない。

事前の備え:トレーニングは転倒滑落を減らすことには大きな効果があり奨励すべき。しかし、転倒滑落をゼロにはできない。岩登りでは、落ちないことをトレーニングによって達成する試みが無意味であったことはよく知られている。人間は必ず落ちる。同じく、必ずこける。

事後の備え:搬出講習会:大変さを実感して転倒滑落を減らす心構えを涵養することには大来な効果があり奨励すべき。しかし、搬出講習会によって転倒滑落をゼロにすることはできない

まとめると、事前・事後の備えはあっても、夏山登山道下山中にこけた時、「これをせよ」というケガ防止技術が、ない。こけたら、「あきらめろ、運だ」しか、現状では、ないのである。

以上のことをもとに、(1)大阪労山事事故事例集 2021 を受けて、教育遭対部に転倒滑落停止研究会を発足させた。(2)目的は、歩き方の研究ではない。夏山登山道とくに下山中に転倒した時・滑落した時に停止させる技術を新たに創造すべく研究を開始する。(3)工程表として、7/4 に第 1 回会合 1 をもち、顔合わせ、ロールプレイなど調べ学習分担を行った。石田良恵役:榎本+大田、山本正嘉役:疋田、野村仁役:中尾、大森義彦役:富永、小川壮太(トレランガイド)役:高田、受け身の検討:滝上、転倒防止学会へのアクセス:中川(委員長)、などである。今後可能なら、公開で進め(実地研究など)、委員を増やしたい。8/3 第 2 回会合:調べ学習発表交流・実地研究の分担と場所決定、第 3 回 実地研究 1、第 4 回 実地研究 2、第 5 回 会合 3 研究まとめに向けて、第 6 回 会合 4 研究まとめ、第 7 回 会合 5 予備、第 x 回 まだ夢ではあるが、福岡+兵庫+大阪合同研究会をもち、成果公表+交流会を Zoom で行い、1 年をめどに成果をあげていきたい。

現在、ハイキング・一般登山の分野の方々のご参加によって、メンバーを増やしていきたいと切望しています。少しでも興味のある方、どうぞ、お気軽にご連絡下さい。お待ちしております(文責 委員長 中川)。